

2018年4月30日

都道府県高等学校野球連盟
審判委員の皆様へ

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「甲子園から全国へ・・・2018年春」

第90回記念選抜高等学校野球大会は、晴天が続き、しかも暖かく、選手にとっては好条件で試合に臨むことができたと思います。

今年、2018年野球規則改正などに伴い、「申告故意四球」「反則投球」「タイブ레이크」が話題になり、高校野球特別規則の改正及び制定に至りました。

準決勝（第2試合）では甲子園大会初の「タイブ레이크」実施かと思われた直後、あとアウト1つのところで試合が決着し、実施は夏以降に持ち越されました。各都道府県連盟におかれましては、春季大会を経て、選手権大会に向けて、万全の対応で臨まれていると存じますが、情報交換などを密にし、更に万全を期していただきますようお願いいたします。

今大会を通じて、幾つかの課題を振り返ってみます。

1. 規則について

『今年度重点指導事項』に掲げている“正しい投球動作”と“正しい捕手の位置”については指導を要する状態が多く見受けられました。特に、「投球動作を途中で止めて投球する」「体の半分以上がキャッチャースボックスから出ている」という状態があげられます。常日頃から『重点指導事項』については、根気よく指導を心掛けてください。

2. マナーについて

捕手が捕球したミットを動かす行為、打者が自身に投げられた球種を投球間にベンチにジェスチャーで伝える行為、ベースコーチが手袋を着用している行為などが見受けられました。このような行為については、規則等には明記されておきませんが、マナーの観点からすぐに対応・指導して、止めさせなければなりません。

3. 試合進行について

「打高投低」の傾向が続き、点の取り合いになる試合が多くなっています。必然的に判定機会は増え、試合時間も長くなる中、高い集中力の持続が求められます。無駄な動きをさせないテンポのいい試合進行は、ひとえにクルーの連携に懸かっています。

4. その他

試合前シートロックでの負傷による「高校野球特別規則6. 試合開始前の負傷による選手変更の特例」の適用がありました。出場不能となった選手の打順、守備位置に控え選手を入れて試合を開始するなど、対応を誤らないよう注意してください。また、夏に向けては、試合中の「熱中症」など適切な対応が求められます。

以上、特に共通課題としていただきたい内容を列挙しました。選手権大会は第100回の節目の記念大会となります。課題を共有し、日々研鑽を重ねて最善の準備で臨みましょう。